

第3回

全国クラブミーティング報告

主管クラブ 日本グライダークラブ 丸山 毅

2014年6月にスタートした全国グライダークラブミーティングですが、第1回を大野（2014年11月）、第2回を長野（2015年06月）に開催し、第3回ミーティングを板倉にて実施しました。第1回大野ミーティングでは各クラブで抱える様々な課題、要望が出てきました。第2回長野ミーティングでは多様な課題・要望を5つのグループに整理しました。今回の第3回板倉ミーティングでは各グループからの行動目標を設定しました。

ミーティング参加者からは今後滑空協会の活動を支援していくためには委員会化して滑空協会をサポートしていくことを前提に各種の議論を行いました。

日時：2015年11月28日13:00～11月29日12:00

場所：ニコニコ亭2階（栃木県栃木市藤岡町藤岡1357）

参加者：甲賀 大樹 公益社団法人 日本滑空協会
日口 裕二 公益社団法人 滝川スカイスポーツ振興協会
田中 廣 大野グライダークラブ／ヤマハソアリングクラブ"
吉田 茂 中部日本航空連盟 岐阜支部
深田 浩 公益財団法人 日本学生航空連盟
吉田 正克 公益社団法人日本滑空協会／公益財団法人日本学生航空連盟
相島 正敏 東海大学OB インストラクターマニュアル翻訳グループ
小高 功 公益社団法人 長野グライダー協会
佐々木健仁 中部日本航空連盟 愛知支部
井上 求 関西エアロスポーツクラブ
篠原 治男 NPO 法人 関宿滑空場
齋藤 岳志 公益社団法人 宮城県航空協会
清水 拓智 公益社団法人 滝川スカイスポーツ振興協会
万場 泰雄 公益社団法人 長野グライダー協会
吉瀬はるか 公益社団法人 日本グライダークラブ
久田 雅樹 JSA information
山崎 博行 京浜ソアリングクラブ（11/28のみ）
丸山 毅 公益社団法人 日本グライダークラブ
吉田 正 公益社団法人 日本グライダークラブ

- 来賓挨拶（板倉町長 栗原実様）
- 最近のインシデント事例（航空機曳航中の索切れ）を元にしたディスカッション
インストラクターのテイクオーバータイミングについて
練習生にやらせすぎないことが大事（やらせることが練習では無い。正しいイメージをインプットすることが大事。やらせすぎは悪いイメージを植え付けることにより逆に悪い影響を及ぼす）
- 前回2015年6月第2回クラブミーティング決定事項を元に各グループよりその後の経過を発表。以下にディスカッション内容を記載。（決定事項は以下の「まとめ」以下に記載）

①事故防止安全グループ

滑空協会に安全事務局の設置を検討、ヒヤリハットのとりまとめ、事故速報（3行記事程度）の推奨。

②競技クロスカントリーグループ

学生パイロットの目標設定をクロスカントリーに広げていくための方策。

③滑空協会機能向上グループ

下記まとめの通り

④インストラクターグループ

BGA インストラクターマニュアル日本語化翻訳はほぼ完成。インストラクターへの配布を考えてはいるが、BGA との取り決めもあり、もしばらく検討させてほしい。

BGA マニュアルは取り入れるべき点は非常に多いが、内容が完璧な訳では無く、追加が必要と思われる部分もある。配布後、内容を検討して日本版インストラクターマニュアルを作成したい。日本版マニュアルを作成することがゴールでは無い。どう活用していくかが大事。

⑤滑空人口増加グループ

JSA の広報について。JSA info とホームページが主。現状は十分だが、強化発展には人材が必要。

学連 OBOG の卒業後のグライダー活動継続は 5%程度。卒業生は滑空人口維持増加のための貴重な人材。

学生航空部卒業生を社会人クラブが卒業後途絶えること無く受け皿となれる様な施策が必要。

費用優遇、知っている人がいるなじみやすい雰囲気、帰巢本能、社会人クラブに所属することの動機付け（役割、居場所がある）。社会人クラブでの目標設定（学生大会で燃え尽きて終わってしまうのではなく、さらにその先の世界への目標設定）、やり残したこと、やりたいことを新たに見つける。目標設定の多様性に対応できるようにする。

各クラブでの実施施策を定期的に情報交換、効果測定を行う。失敗事例の共有を行う。

・まとめ

各グループでの取組事項

①安全グループ

第1段階の優先事項：

事故報告のフォーマットの作成

各クラブに安全担当者（窓口）を設置

事故報告一報は Sailplane & Gliding 誌 の内容程度を検討

日時 機材 パイロットの年齢 飛行時間 事象

翌週末の各クラブ運航時に各クラブ内に周知できることを目標とする

事例がまとまったところで「安全白書」を作成

曳航オペレーションについても安全グループの範囲とする

②機能向上グループ

指定養成との区別のため、名称を「総務グループ」とする

「運営部会」と「会員支援部会」を設置

優先事項：

運営部会

各グループの立ち上げのサポート

60条92条申請様式の統一化

全国の現状を把握し、それを基に対処を策定する必要がある（JSA を通した申請の可能性検討）

無線の選任届については今後検討

会員支援部会

人口増加支援

ユースへの優遇プログラムの調査

各クラブの実施結果報告（次回ミーティングで実施）

会員制度（個人会員制度→団体会員制度への移行の可能性）

今後一年をかけて検討。収入が減少する可能性に留意

クラブ間連携

クラブミーティングは緩やかにグループとの関わりをもちながら今後も年1回開催する。

次回開催地は仙台 主管クラブ 宮城県航空協会

③インストラクターグループ

ワーキンググループは日本版インストラクターマニュアルの作成に取りかかる。

BGA インストラクターマニュアル日本語版の配布。

現在作成中の翻訳版マニュアルの配布方法については引き続き検討させていただきます。

各クラブ代表インストラクターと関係を作り、現在のメンバーはWGに移行する。

マニュアルに掲載する絵の作成に得意な人の協力がほしい。

BGAにも問い合わせしてみる。

④クロスカントリー競技グループ

各クラブで利用している旋回点、タスク、クロスカントリーガイドランス、推奨プログラムの整備。

各クラブに協力要請。

ローカルからクロスカントリーへの移行プログラム紹介実施。

OLCの各クラブでの実施。

第12回 おおのローズカップ競技会開催のご案内

愛知万博に協賛して大野グライダークラブが始めました「おおのローズカップ」を今年も開催いたします。グライダーの基礎というべき上昇気流を捉える飛行技術を競う競技として、なかなか楽しいものですので、皆様の参加をお待ちしております。目の前で競技状況がわかるので、面白さ抜群です。応援にもぜひお越しください。お待ちしております。

名 称	第12回おおのローズカップ
主 催 者	大野グライダークラブ
後 援	岐阜県大野町 公益社団法人 日本滑空協会 公益財団法人 日本学生航空連盟
競技期間	2016年5月2日（練習日） 5月3～5日（競技）
参加資格	滑空機操縦技能証明保持者。練習許可書保持者。 2名で1チームとして参加
競 技 ル ー ル	離脱後、最高高度1100mまでの獲得高度と時間で採点する。単独飛行が認められない方、練習許可書の方は複座機での教証同乗競技となります。
表 彰	団体（チーム）、個人、学生、豪華副賞用意します。
参加費	1チーム6000円（レセプション参加費、昼食付）
申込期間	2016年3月1日～4月10日 （申込書はホームページよりダウンロード） 新たに航空局への申請が必要な方は3月31日締め切り。

第12回 おおのローズカップ
後援 ☆岐阜県 大野町 ☆公益社団法人 日本滑空協会 ☆公益財団法人 日本学生航空連盟

ローズカップ争奪の“グライダー早上がり競争” ★ブログ <http://blog.livedoor.jp/rosecup/>

開催場所：大野滑空場
岐阜県揖斐郡大野町大字公郷 揖斐川左岸河川敷

2016.5.2 練習飛行
5.3 開会式・競技飛行
5.4 競技飛行
5.5 競技飛行・表彰式

大野グライダークラブ <http://www.ohno-gc.jp/>